

平成24年度 第4回 奈良県公共事業評価監視委員会 議事録

1. 日時 平成25年2月5日（火） 10:30～11:40

2. 場所 奈良県文化会館 集会室A

3. 出席者

・委員（敬称略）

三野 徹、松井 淳、粕井 憲、川真田 リエ

三浦 晴彦（欠席）、朝廣 佳子（欠席）

・奈良県 森林整備課、南部農林振興事務所、技術管理課

・野迫川村 建設課

4. 議事

（1）委員会の運営について

1) 平成24年度 公共事業評価監視委員の確認

2) 平成24年度第3回公共事業評価監視委員会 議事録の確認

3) 平成24年度再評価対象事業一覧説明

（2）地域自主戦略交付金事業 林道北股弓手原線の再評価について

1) 再評価に関する説明（野迫川村）

2) 再評価に関する審議

（粕井委員）

3点確認したいことがあります。

まず、当初道路幅を5.0mと計画されていたものを4.0mへ変更することで、特に利用する際に大きな支障はないのでしょうか。

（野迫川村）

森林施業や車両通行に支障はありません。

（粕井委員）

この道路は簡易舗装等されるのでしょうか。

（野迫川村）

全線開通後、簡易舗装を行う予定です。

(鮎井委員)

資料 7 ページに齡級に関する資料がありますが、40 年生前後の木が多いです。私の認識では 80 年生ぐらいから市場に出回っていくということだったように思いますが、戦前、戦中の強制排出がなされた影響でこのような齡級分布になっているのでしょうか。

(野迫川村)

昭和大水害の後に植えられたものだと聞いています。

(松井委員)

資料 16 ページに総費用 33 億円とありますが、18 ページの全体事業費 24 億円とあります。この違いはどういったもののでしょうか。

(森林整備課)

社会的割引率に加え、工事完成後の維持管理費と森林整備経費を計上していません。

(三野委員長)

資料にもありましたが村全体では人口が減少しているという中で、集落そのものの存続は可能なのでしょうか。限界集落になる可能性はないのでしょうか。

(野迫川村)

現時点ではそういった可能性はないと認識しています。

(三野委員長)

新たな人工林は増やす予定はありませんか。

(野迫川村)

ありません。

(三野委員長)

費用対効果算出時の利用区域面積に天然林は入っているのでしょうか。

(森林整備課)

人工林のみを計上しています。

(三野委員長)

天然林は近年その保水力を見直されており、天然林の水源涵養機能もぜひ評価の対象としていただきたいと思います。

(三野委員長)

先ほどの説明では、生活道路としての利用の意味も大きいように思われましたが、こういった便益はこのB/Cには反映されているのでしょうか。

(森林整備課)

一般交通便益に含まれています。

(鮎井委員)

近年の林産業は間伐のサイクルが崩れているように感じます。間伐された後の木材のその後の流通についてはどのようにお考えでしょうか。

(野迫川村)

野迫川村では「林業再生プロジェクト」を立ち上げ、森林組合と協力して新たな利用促進を考える取り組みを行っています。

(鮎井委員)

このような質問をさせて頂いたのは、徳島県で林業再生に取り組むプロジェクトをなされていると聞いたものですから、そういった取り組みをこちらでもされているのかなと思い、質問させていただきました。

道というのは生活を繋いでいく根幹であります。また森林を整備することは川、海まで影響を与えることから国土保全として重要な役割を担っていると思います。ぜひこの林道整備事業についても進めて頂きたいと思います。

3) 意見集約

継続を妥当とする。

(3) 地域自主戦略交付金事業 林道ホラ谷立里線の再評価について

1) 再評価に関する説明 (野迫川村)

2) 再評価に関する審議

(鮎井委員)

資料9ページについてですが、道路幅を見直し3.5mにされたことでコストが下がったと思うのですが、前回評価時のB/Cが1.33から見直されたB/Cが1.08と下がっています。これはなぜでしょうか。

(森林整備課)

木材価格の下落が原因です。

(三野委員長)

生物多様性という言葉が昨今言われておりますが、生態系の多様性、種の多様性、遺伝的多様性の大きく3つに分けられると思います。間伐により下草保全に繋がるとは思いますが、これは特に生態系の多様性に繋がると考えられますので、そういったこともPRされても良いかと思えます。

また近年、里山保全についてはよく言われるようになっていますが、この野迫川村の森林は里山ではなく、奥山かと思えます。奥山を守るという視点もこの事業にはあると思えます。ただ山を崩れさせないというような目的ならば砂防事業などの他の事業でも良いわけですが、奥山を守るという視点から林道事業の必要性があると言えます。

(三野委員長)

この林道事業を実施することで、村内における雇用面での便益というものはないのでしょうか。

(野迫川村)

林業事業が促進されることで村外から林業従事者を雇用した結果、定住者が増え、人口面での効果もあることから、本事業も同様の効果があると考えております。

(松井委員)

資料5ページの8歳級から12歳級の木が多いというのは、拡大造林によるものだと思います。先ほどのお話にもありましたが、今は生物多様性国家戦略が出されており、以前の林業振興のために拡大造林を作った時代から変わってきています。事業の説明ではどちらかというと林業振興の視点が強かったように思えます。今は林相転換を図るといったことが言われるようになっているので、この事業を実施することで、紀伊半島の森林を守り、延いては生態系保全に繋がるといったような視点がほしいと思えます。

(野迫川村)

現在本村における今後の森林のあり方について協議に入るところであり、今までの拡大造林の考えはなく、林相転換の考えも今後出てくると思います。

(松井委員)

先ほどの事業と同じ点なのですが、資料 9 ページでは総費用 22 億円、資料 11 ページでは事業費 21 億円となっています。この差が小さいのはなぜでしょうか。

(森林整備課)

B/C 算出における総費用 2210 百万円は、事業実施後 40 年間の維持管理費も含んで算出しています。ホラ谷立里線は事業開始から 10 年しか経過していないことに加え、事業計画期間が長いです。このことからマニュアルに沿って算出すると、社会的割引率による影響が少ないため、あまり全体計画事業費と差がなく算出されるからです。

(鮎井委員)

私はよく野迫川村に伺ったこともあり、よく存じておりますが、わさび等の特産もあって非常によいところだと思います。林道を付けて頂くことで地域の活性化に繋げて頂きたいと思います。

3) 意見集約

継続を妥当とする。

効果を発現するためにもコスト縮減を図りながら事業を早く進めて頂きたい。